

アジアゾウにおける自動給餌器の導入と効果検証

栗原幹尚¹⁾、古田洋¹⁾、大浦敦史¹⁾、矢口茜¹⁾、
船藤史¹⁾、○岡崎孝樹¹⁾、金澤朋子²⁾
(1:横浜市立よこはま動物園, 2:日本大学)

当園ではアジアゾウ (*Elephas maximus indicus*) の雌雄各 1 頭を飼育しており、2021 年度までオスを準間接飼育、メスを直接飼育で飼育管理していたが、安全面等を考慮して 2022 年度から準間接飼育に統一して飼育管理を行うことになった。

準間接飼育に統一したことにより日中の展示場での給餌方法を見直す必要性が生じたこと、動物福祉や展示効果向上への活用が図れることから、2022 年 3 月 29 日に自動給餌器を設置した。

給餌方法の変更が日中の行動に与える影響を検証するため、自動給餌器設置前(対照区)と設置後(処理区)で各 5 日間行動観察を実施し、行動割合や展示場での場所利用を比較して χ^2 検定を用いて解析したところ、2 頭とも行動割合、場所利用で有意な差が見られた。

また、各項目ごとにマンホイットニー U 検定を用いて有意差の検証をしたところ、2 頭とも「操作」の項目と自動給餌器を設置した区画の利用率において有意な差が見られた。

以上のことから自動給餌器の設置と給餌方法の変更はアジアゾウの日中の行動に変化を与えたことが示唆された。今後は自動給餌器をより効果的に活用できるように試行錯誤していく。